

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

本校の平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果を公表いたします。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、3年生は全国学力・学習状況調査、1，2年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、数学共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は「知識」に関する問題、B問題は「活用」に関する問題です。

また、今年度は、3年生において、3年に1度の理科調査（「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題）も実施されました。

結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査の結果の公表

本校の「平成30年度 全国学力・学習状況調査、佐賀県学習状況調査」の結果を公表いたします。

教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組みます。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、学校教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思っております。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、3年生は全国学力・学習状況調査、1、2年生は佐賀県学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は国語、数学、理科の3教科で実施され、国語、数学共にA問題、B問題という2種類の調査で成り立っています。おおむねA問題は「知識」に関する問題、B問題は「活用」に関する問題です。結果を受けての本校の分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、ご覧ください。

### 1 生徒の実態

#### (1) 学習状況調査結果の推移

	国語				数学				理科
	1年時	2年時	3年時		1年時	2年時	3年時		3年時
			A	B			A	B	
H29入学 現1年	65.6 (0.94)				62.2 (0.93)				
H28入学 現2年	70.8 (1.03)	64.8 (1.10)			72.4 (1.06)	55.1 (1.02)			
H27入学 現3年	65.2 (0.95)	55.3 (0.95)	70.0 (0.93)	53.0 (0.90)	61.8 (0.85)	42.2 (0.78)	54.0 (0.84)	33.0 (0.75)	55.0 (0.86)
H30正答率の全国比			(0.91)	(0.87)			(0.82)	(0.70)	(0.83)

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は平均正答率(%)、下段( )は県平均を1としての比較。

◎「H30正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

#### (2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

##### ○学習状況調査の結果から見える実態

- ・1年生においては、国語、数学ともに県平均を下回っている状況です。国語においては、「知識・理解・技能」と「話す・聞く」領域は「おおむね達成」を上回っています。「書く」「読む」の領域は「要努力」の達成状況のため、さらに指導に力を入れていきたいと考えています。数学においては、「数と計算」領域で「おおむね達成」を上回っています。しかし、その他の領域は「十分達成」の状況です。また、「活用」に関する設問では「要努力」の達成状況のため、さらに指導に力を入れていきたいと考えています。

- ・2年においては、国語、数学ともに県平均を上回っている状況です。国語においては、全ての領域において「十分達成」の状況です。しかし「読む」「漢字の読み」「語句に関する知識」の領域に課題があります。数学においては、「見方や考え方」が「要努力」の状況で、課題があります。今後より一層、少人数・TTのよさを活かして、支援の充実を図りたいと考えています。
- ・3年生においては、国語、数学、理科全てで県平均を下回っている状況です。特に、国語A・国語Bともに、「書くこと」に課題があります。数学では、「関数」「資料の活用」に課題があります。理科では、「自然現象への関心・意欲・態度」「知識・理解」に課題があります。国語、理科では基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた指導の充実を図りたいと考えています。数学では、今後より一層、少人数・TTのよさを活かして、支援の充実を図りたいと考えています。

#### ○意識調査の結果から見える実態

- ・授業に関しては、学習の「めあて」や「まとめ」が授業の中で示されていた、ノートにきちんと「めあて」や「まとめ」を書いていたと答えた生徒の割合は県平均より高かったものの、学習内容を振り返る活動が上学年になるほど充分でない状況があります。今後、改善していきたいと思えます。
- ・学習習慣については、自分で計画して学習に取り組んでいる割合は全学年とも県平均より高い傾向にあります。しかし、宿題については、1年生は100%していると回答していますが、3年生については「どちらかといえばしている」まで含めても県平均より低い状況です。内容については、復習を中心とした学習を行っている状況です。
- ・将来の夢や目標をはっきり持っている生徒の割合は上学年のなるほど低くなる傾向があります。また、「人の役に立つ人間になりたい」と思う生徒の割合は2年生では高いものの、1・3年生は県平均を下回っています。様々な体験の不足から自分に自信が持てず、人前で自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを苦手としているようです。
- ・普段（平日）、1日あたりスマートフォンやゲーム機を使ってゲームやインターネット、SNSなどを1時間以上している生徒の割合が高く、家庭と連携した指導が必要です。
- ・朝食摂取については、2年生においては県平均より低く、家庭と連携して指導を行う必要性があります。
- ・生徒と地域との関わりが強く、地域行事に多くの子どもたちが進んで参加しています。

## 2 改善に向けた具体的な取組

### (1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業に集中して取り組むよう、生活習慣や学習規律、学習環境の整備を継続していきます。
- ・授業の導入時に基礎基本的な内容の定着を図るために前時の復習を行います。
- ・西部型の授業を意識し、生徒に見通しを持たせ、「めあて」と「まとめ」を大切にした授業実践に取り組みます。また、生徒が学習の流れが分かるような板書を心がけます。
- ・本校生徒が苦手としている「自分の考えを他人に説明したり、文章に書いたりする」場面を授業の中に設定し、「話す・聞く」「書く」など言語活動の充実に取り組みます。
- ・生徒の興味・関心を高めたり、資料活用能力を育成したりするために、電子黒板やタブレット等の積極的利用を図っていきます。そのために職員のICT利活用能力の向上を目指します。
- ・全職員で生徒の実態を把握、共有し、すべての教科で課題解決に向けた取り組みを行い、年間最低1回以上の研究授業・授業研究会を実施して、教師の指導力の向上を図ります。
- ・確かな学力の定着と向上を図るため校内研究に取り組み、新学習指導要領に向けた準備及び指導方法の改善を図ります。

## (2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・学びの学習会を実施し、タイムマネジメント・自主学習の在り方などを学習させ、家庭学習の習慣づけや内容の充実を図ります。また、定期テスト等を活用し、振り返りを行わせ、家庭での時間の使い方について考えさせます。
- ・月曜から木曜まで、帰りの会前の15分間でタブレットを活用した「スタディサプリ」を実施し、自分のつまずきに合った課題に取り組みせ、学力向上を図ります。
- ・「各教科の学習の仕方」に関する冊子を作成し、学級活動などで取り扱い、学習規律の徹底や学習に対する心構えを育てます。
- ・年間2回のQ-Uアンケートを行い、生徒の実態を把握し、学級経営の改善、生徒への支援方法の改善に取り組みます。また、アクティブ・ラーニングの基礎となる指示的風土の醸成を目指し、学級活動や帰りの会などで、グループエンカウンターなどに取り組み、仲間づくりを進めます。